

SHEKA MUNONGA!

青年海外協力隊・村落開発普及員 佐々木 梢の活動レポート

2013年4月8日発行

主な出来事

遂に提案書が完成

ラングストロス巣箱導入提案書

財政難のために巣箱を購入出来ず
2年間も放置状態の機材。解決案
提示のため提案書を作成（→2頁）

付加価値活動の調査

地域内外の住民団体を訪問

首都カンパラのバナナの製紙工房や
ブシェニ地域のワイン作りの団体を
訪問し「ウガンダ国産」の複雑な背
景が見えてきました（→2頁）



口承文芸の魅力発見

昔ばなし・ナゾナゾを体験

小学校にお邪魔し、ニャンコレ地方
の口承文芸をチラリと拝見。地域の
魅力をここに発見（→3頁）

JICA調査団に同行

青果物の生産流通調査

JICAと省庁の調査団が任地を訪れ、
県庁の農業課長と同行させて頂き、
勉強してきました。（→5頁）



その他

第3号報告書をJICAへ提出、ラング
ストロス巣箱関連の良い知らせetc



平成25年1月1日 サバンナにて「初日の出」

アフリカさ来れて良かったな〜
クイーンエリザベス国立公園

UGANDA JAPAN



春ですね！実は今回が最終号になってしまいました。色々
あった10月以降の活動をまとめてお知らせしますm(._.)m

今後のブシェニ県における一村一品は？

赴

任から6ヶ月目の12
月、第二号報告書の提
出がありました。その内
容を、配属先のブシェニ県庁生産
局職員と話し合い、これまでの
OVOP（一村一品）プログラムの
進行状況及び県内グループの今後
の課題に共に向き合いました。

ブシェニ地域にはOVOPグルー
プは4つありますが、そのうち2
つは2010年に県が分割された
ため、現在は他県とみなされてい
ます。そのため、本県庁職員がそ
のグループの支援のために活動す
るのが非常に難しいのが現状。

また、ウガンダ政府へ配属され
ていた日本側専門家が11月以降
不在になり、プログラムはこれか

らどうなるのか（特に資金面？）
現場に戸惑いが見られました。
でも、そこである県庁職員が一言
「そもそもOVOPでは、地域住民の
主体性が重んじられ、中央省庁や
助成金など外部に頼らない事が重
要なのだから、中央省庁の動きに
振り回されないで、我々独自のや
り方で少しでも多くの農民のため
に頑張ろう。OVOPだけが地域おこ
しの方法じゃないのだから。」

サスガ〜良いゴド言ってケダ〜☆
地域に対する愛着や誇りが高い
ブシェニの人々。だからこそ出来
る「独自の地域おこし」。今後、
どのようなになるか期待して見守り
たいと思います。

ラングストロス巣箱を導入させたい！ 『じえんこ集め』のため提案書を完成

蜂 密採取のための遠心分離機を貸与されているのに2年間も未使用状態になっている、ブシェニ農業養蜂家協同組合・・・（前号参照）

11月、新事業実施の可能性を検討するため、県庁昆虫課長と養蜂家を訪問し、遂に提案書が完成。その提案書の内容を、ザックリ説明するぞ～！

ラングストロス巣箱導入提案書

- 実施期間：
2013年1月～2014年7月
- 事業目的：
ラングストロスの高い生産性を
を実証し、普及させること。その
ため2010年にOVOPプログラ
ムに投入された蜂蜜抽出装置を稼
働させること。
- 期待される成果：
蜂蜜生産量の増加、ラングス
トロス巣箱の使用法の普及
- 受益者：
養蜂家 蜂蜜流通業者と消費者、
受粉が必要な作物を育てる農家



2010年に機材投入されたのに未稼働状態だった、ラングストロス巣箱専用の蜂蜜遠心分離機。これで県内養蜂家グループに新技術を普及させるのが目的。

- 利益：
蜂蜜生産量の増加、ラングス
トロス巣箱の新技術を地域に紹介
- 予想される支出額：
巣箱購入 約100,000円
経常支出 約24,700円
（講習会、モニタリング訪問）
→ 計 約124,700円

この提案書は、政府の助成金制度へ申請するための資料として作りました。実はなんと、その助成金が下りる事になって必要な額の2/3は確保できる事になり、来期からプロジェクトが始動出来るという知らせが(T T)
苦勞して書いて良かった～！



同期隊員の活動見学@首都カンパラ

田中加奈子隊員（環境）がロータリークラブの定例会合にて「環境と開発」という題で発表、問題提示と情報収集を頑張っています。見学して来ました^^
（左端：田中隊員／右端：中川隊員）

「もったいない」を省いて収入向上を狙え↑ 『付加価値』の可能性を探り地域を調査

「ウガンダは資源豊かで開発の可能性が高い」とよく聞きます。土と気候に恵まれ農作物が良く育つことがその理由です。でも、その高い可能性を生かしきれていない～ つまり「もったいなえ～」（><）でも、ウガンダ人は新しい食材に非常に消極的。ならば、今あるもので余っている食材の活用方法を紹介出来たらいい！まずは、その可能性を探るため、果物ワインの生産者やバナナの繊維の紙工房を訪問、調査を開始しました。しかしそこで、「付加価値を付ける」という事が「外国人に高く売るため」と考える人が多いと気がつき、ちょっと疑問が浮かんできました。市場ターゲットが地域外だけなんて長続きするんだべが・・・

↓バナナの
幹の繊維



果物ワインやビーズ手芸に取り組む女性グループ→

昔ばなし、ナゾナゾ（？__？）

失いつつある文化から知るオラホの魅力

昔

ばなし。

「子供の頃、
バッチャに聞か
せて貰った

な〜。昔の生活が分かって
面白えがったっけ。んだ！
昔話を聞いたら、地域の伝
統文化や価値観が分かるん
でねべが？」

そう考えていると、ある
小学校4年生の学級が、私
のために昔話しとナゾナゾ
の時間を特別に設けてくれ
ました（^o^）



決まり文句があるのは、世
界の昔話の共通らしい！？
秋田の昔話は「むか〜しむ
かしあったんだど・・・」
が決まり文句。実は、ニヤ
ンコレの昔ばなし（オクガ

ナ）にも、やっぱり決まり
文句がありました！

こちらの昔ばなしは「ン
クガニレ、ンクガニレ」
（話そうか、話そうか）と
いう呼びかけで始まり、聞
き手は「テベレ」と相槌を
いれ、話し手にお話しを通
じて知恵を乞います。途
中、詩や歌も入ります。



「テレビやラジオが無かつ
た時代には、寝る前に火を
囲んで家族が集まり、大人
が子供へ昔話しを聞かせた
もんだよ。」

家族の団らんの時間が減っ
てしまったのは、アフリカ
も日本も同じなんだね〜
大事にしねねな。



【ブシェニのなぞなぞ（エビシャクゾ）】

- ① 牛がどうしても欲しいものは？
- ② 私は人間の歯を全身にまっています。私は
一体何でしょうか？
- ③ 私達3人姉妹は、常に一緒になければ料理が
出来ません。私達は何でしょうか？

→ 答えは、最後のページだど〜（^ ^）



「ウガンダ人は主食を数種類組
み合わせて食べるけど、これし
かない時は、一食に一人5本は
食べるのよ。皮剥きは子供の時
からやっていて慣れているから、
包丁一本で超高速。誰にも
負けないわよ〜！」

ムジュリジ・アリスさん
高等学校の農業教師

ウガ飯のすすめ？ ブシェニのマンマ*

ブシェニは国内最大のバナナの産地。
国民食マトーケの作り方を、
ばや〜っと紹介するどお〜

マトーケ(Matooke)

材料：調理用バナナ、バナナの葉、
茎、水、蒸し器（現地ではアルミの円
柱型のボウルを二つ）

まず、炭や薪で火をおこしてい
る間に、未熟の緑のバナナの皮を
剥きます。ボウルの底に茎を適当
に切って数本敷き、水を注ぎ、そ
の上に葉を広げ、剥いたバナナを
置いて行きます（左写真）出来た
ら葉で包み込み、更にもう一つの
蒸し器用ボウルを逆さにしてかぶ



せ、火にかけて蒸
します。火が通ったかは、匂いで
分かるらしい・・・おらさは分か
らね！

*マンマ（秋田弁：ご飯）

秋田を考える

『国産は売れない』

国産は質が悪いという固定観念

「国産品は国内で売れない。消費者は運送費のため値段が高くてもケニアなどからの輸入品を好む。」・・・あれ？国産品を優先的に買いましょうっていうのは世界の常識で無かったの～？



食品の安全性は地産地消の鍵

国産品が売れない理由は、生産技術の低さを国民が良く知っているから。特にそれが食品だと、衛生面が心配になってしまうんだな。

でも、地産地消って地域の経済発展にはやっぱり大事だともう！その点、食品衛生に意識が高い日本は、やっぱり恵まれている！だからこそ新しい食材の調理方法に積極的になれる余裕があるんだなあ。

ウガンダ人が「目に見えない物」に疑い深い傾向も見えて来ました。菌を操る発酵文化が豊かな我が国・秋田、これも恵まれでらごだんな～

付加価値の意味とは

「付加価値＝加工」に限らない

商品自体はそのままでも「どう宣伝するか」「誰をターゲットに売るか」を変える方が簡単で、安くもある場合があると聞き、妙に納得。そっか、それも付加価値なんだ～！

「外国人に売れるから」

元々外国から入ったワイン作り。なぜ挑戦しているか聞くと、理由は単に「外国人ウケが良いから」別に生産者本人は好きでもなく味の違いも分からないんだと・・・

アヤ～ソレダバ本当に地域の魅力を延ばした地域おこしになるんだべが？そもそも、味に馴染みがない生産者に良質を求めるのは限界があるのでは？一体長続きするんだべが？持続可能な地域開発って難しい。

スクマウィキ (ケール)



「安上がり」という名前の葉野菜で、ケニアなどウガンダ東部で一般的だそうです。

栄養価が高く、長距離選手を多く輩出する東アフリカ人のスタミナの秘訣だとも言われてるそう。日本では『青汁』の原料だしな～



大中小・・・茄子の数々

ウガンダでまんずタマゲダのが、茄子の種類の多さ。グリーンピースのような小さいものから、写真の様な団子程のもの、日本でも見られる紫色の長いものや米茄子もあります。全て呼び名が違う！味は小苦さがコデラレネ～



ドードー (アマランサスの葉)

任地で「緑の葉野菜」と言えばこれ。ヒユ科の植物で、日本では穀物として実を食べる種類が知られていますが、野菜として葉を食べる種類などもあり、種類が豊富。カルシウムや鉄分はホウレン草の何倍もあるんだど～！

ドゥディ

キュウリ？
ズッキーニ？
固い茄子？



首都カンパラで発見したこの野菜、インドの健康法アユールヴェダにも多用される健康野菜で、サラダやジュースなどにされるそうです。

ある日のお買い物

近所のバナナ加工工場では、バナナ以外にも数々の野菜が栽培されています。運がいい日は、畑仕事中の労働者からその場で、もぎたての野菜が購入可能(^_^)

● この日の買い物

トマト	約1キロ
ピーマン	約2キロ
甜菜(ビーツ)	4つ
ネギ	1本

さて合計で、なんぼでしょうか？

答えは3000シル(約100円)

あ～しあわせ～～



↑お気に入りのビニール紐のカゴで買い物へ

秋田サも似だよんたのあるつけナ～

「トマトと象」「リンゴと熊」 人間と野生動物が自然環境を共有すること



白 然環境が豊かな事で知られるウガンダ。任地ブシェニ県は有名なクイーンエリザベス国立公園が近い事で知られています。

11月末、青果物（主にパイナップル、トマト）の生産流通調査のため、JICAウガンダ事務所の荒木次長や湯尾調査員などが省庁関係者を連れブシェニ地域を訪れ、私も県庁農業課長の共に同行させて頂きました。

調査先は、県庁近くの市場→パイナップル農家組合→国立公園近くの市場。



↑湯尾調査員（左）荒木次長（右）

その日、一番心に残ったのはあるトマト農家さんの一言。

「僕らの最大の課題は、ゾウの被害。畑一面を荒らされるんだ。」

・・・ん？あ、そっか

ここは国立公園のすぐ近く。動物園の人気者ゾウ



オラ知～らね

やカバ達が農家の天敵だとは考えてもみねがったヨ。

ゾウは生態系保護の象徴的存在。だから、私は密猟者から保護する事ばかりに考えがいき、彼らが近隣の農民の生活に多大な悪影響を与えていることまでは考えていませんでした。

そういえば、秋田でも似たような事が起こってますね。野生の熊によってトウモロコシなどの飼料作物の畑やリンゴなどの果樹園が荒らされたり、民家に侵入されたりなどの被害が毎年よく聞かれます。

ウガンダのゾウも秋田の熊も

「畑サ入って来るなって言われても、そっちが勝手にオラホの領地サ入って来たんだべ？おら、しらね～」

と内心思っそう。それに反して人間側は

「食糧が必要だし、土地が余っているんだからいいべ。畑は動物のものじゃねんだがら・・・」

と言う人が多いかも。でも、なかには、昔から動物や環境を考慮してきた人達もいることを忘れてはならないですよ。

人間も生態系の一部 たとえば、白神山地のマタギ。彼らは、昔から生態系のバランスを熟知し、1年間に捕る熊の数を決め、「とりすぎない」ルールを守って来たそうです。世界遺産になり観光地化された時は「乱獲している」と批判する人もいたそうですが、昔から自然環境を考慮してきたマタギも白神山地の生態系の一部なんだしな。*

*中日環境net持続可能型社会を目指して野口健さんのインタビューを参考

人間と野生動物の共生 そんなことを考えていた時に、ウガンダ随一の観光地「クイーンエリザベス国立公園」で、念願のサファリ体験をすることが出来ました。

自動車で舗装道路をドライブしたり、水上ボートで運河側から水



辺に集まる動物を観察したり・・・。



特に感動したのは、運河沿いの漁村のすぐ

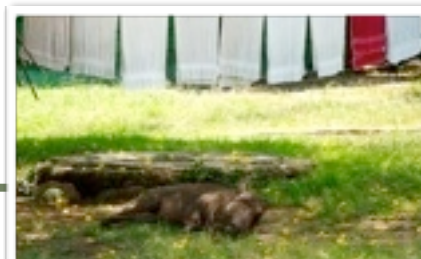
水牛と鳥ッコのお互い様の関係

近くにゾウの群れを発見した時。昔からこのように野生動物と共存しているんだな！村人はきっと生態系を尊重し「とりすぎない」ルールを守っているんだべなあ。



「この国立公園は昔から乱獲する密猟者が少ないため、他の国立公園に比べると人間に威嚇する事が少ない。」とガイドさん。

生態系のバランス、ウガンダに来てよく考える様になりました。



宿泊先のホステル敷地内で昼寝をするワート hog さん。物忘れが酷すぎて、天敵から逃げている事も直ぐわすれてしまうそうです。ホジね過ぎ～

最後の、最後のひとごど

秋田、世界各地のみなさんへ

春だしな～！秋田のみなさん、ウガンダの仲間達、世界各地で活動する 同期隊員のみんな、まめでらんしか～？

表紙にも書きましたが、一身上の都合により任期短縮し帰国する事になり、秋田に帰っています。自分でも想定外の展開で気持ちの整理に時間がかかってしまい、ご報告が遅れてしまいました。今は沢山の方々のお力添えでやっと落ち着きました。

正直、最後の数ヶ月間は辛かったです。昔は弱音ばかりで泣き虫だった私ですが、今回は自分なりに精一杯考え、将来の可能性や選択肢をよく考え、思い切った決断が出来ました。

任地では毎日生活環境や文化の違いに揉まれ、自分の価値観がしょっちゅう変化していくのが驚きで、沢山の学びがありました。活動がもどかしい時、同期隊員が大きく成長している姿を見て元気付けられました。10月半ば、不運にも天災にあい一人で寂しい時、側に居てくれたのも仲間、一番大切な物を見失いそうになった時それを思い出させてくれたのも、やっぱり仲間でした。側にいるだけで力になる彼らの達の存在が本当にありがたかったです！

そして、最後まで頭から離れなかったのは、秋田の皆さん、世界中の同期隊員、そして家族の顔でした。今も私を信用し、応援し続けてくれている方々に本当に感謝です。

この通信を楽しみに読んでくださった方々にも感謝です。あたたかいお言葉やご意見をどうもありがとうございました。

秋田で見かけてもマボロシじゃねど、 声かけてタンヘ～
さ、また再出発するぞ～！ せば～



6月末到着直後、同期隊員とエンテベ空港にて
みんなは一生の同志、宝物です。ありがとう！

佐々木 梢（ささき こずえ）

JICA青年海外協力隊

平成24年度1次隊／村落開発普及員

ウガンダ国／ブシェニ県庁配属

【ブシェニのなぞなぞ、答え】 3ページ

- ① 上の歯 → 牛は無えんだど！
- ② メイズ（トウモロコシ）→ 白いから・・・
- ③ 火起こし用の石
→ いつも3つセットでないと鍋が安定しない！

分がったっけしか？ たまげだ～